

平新報

發行日 五月五日
每月二回 五日發行
編輯者 山野邊庄吉
印刷者 平新報社
發行所 平新報社
電話 五五五
廣告料 一回五十錢
寄附料 一回五十錢
送部 定賃金拾五

石城郡の山間冷害

凶作地を視察して

福島縣石城郡養蠶獎勵會長
農業技手 木田 藤次郎

東北地方の凶作は一度其地に、ぶつつかつたのだから、足跡を印した者其悲惨な立つ瀾が無いと、泣へてもなりして有れば一朝凶作や状況に眺れぬ涙を流さぬ泣き切れぬものがある。吾が一人もなしといふが、吾が石城郡の山間僻村は、だら猿の飼育方法は何場の難關を救ふ事が出來得るか、川前村福賀、小白井と云つても今迄の様に蠶るのである。依つて今回の凶作、まづ三坂村養蠶部落の座を使用する謂ゆるワラザ石城郡山間僻村の冷害に依り、まづ凶作の年に飼は改良して、經濟育蠶の凶作地の實際を見聞するは、稲穂の先の粒々が辛苦の條桑育蠶法に依つて行はねに際し農家各位の覺醒と効を物語つて、房々とし、とて算盤が採れるも自省を促して萬一の凶作豫融んりの弓腰に垂れて二百のぢやない。斯様云ふのも防策の實際に資せられむ事三百の粒々が地面へ頭を下本年の様に凶作が、いつやを希ふて止まぬ。(水稲凶作地を視て) 年はずつたの凶作枯れ海の様に枝草は天上に、つたてある惨めさ、凶作の時きは又稲作ばかりでなく野菜類、大豆、小豆類に至るまで農作ぢやないのであるから凶作の見舞はれた地平觀世會では本月二十三日、方農村民の窮困振りは言語新嘗祭日を下し同會の創始(午前八時半開始時刻勵行)に絶するものがある。

野島、白井兩氏 追善素誼會

二十三日 於谷口樓
主催 平觀世會
素誼 番組
生島(内六)
政(内三)
好誼 會
筒(内三)
松(内三)
萬(内十六)
千(内三)
千(外十三)

奉任校長

本郡では二名
本月一日附奉任待遇校長の
發表あつたが本郡内では左
の二氏である。
内郷第三小學校
高等官七等 柴田正則
高等官八等 赤津千里

就中三坂村差蠶の如きは本郡山間僻村で一番ひどい凶野口の兩師を招き左の番組の收入高としてゐる部落だなり準備を急いで居るが並非に近年頗る前價安の打撃備の都合もあり平町五丁目を築りて二進も三進もの動非上貞治郎氏迄出演者は通百きが取れんと自力更生に知を乞ふとの事である。(會場平町谷口樓) 弱法師(外十三) モートルにて開催。

祝、創刊拾週年

平町揚土 莖
小檜山久作

平庶民金庫専務理事
諸橋敬一郎

平町胡麻澤
蛭田利光

平町古銀治町
長瀬量平

平町五丁目
志賀齒科醫院

平町三丁目
なかや洋服店

平町搔樋小路
ライト寫眞館

湯本町
温泉旅館 松 柏 館

磐崎村
白島鑛泉 喜 樂 屋

磐崎村
白島鑛泉 春 木 屋

磐城セメント代理店

西村屋藥舖
平町二丁目(電話長三番)

内科、小兒科
藤沼醫院
平町紺屋町 電話五〇七番

吸入用酸素 純度 99%
モノサシ
マ ス
ハカリ
体温器
寒暖計

關内藥局
電話四〇番

平町田町
高久病院
電話五一三番

和洋金物銅鐵商
釜屋商店
電話九九番

